

荒川区景観コラム ～ 千住大橋 ～



名所江戸百景 千住の大はし

安政3年(1856)年2月
歌川広重画 魚栄版

画面中央に描かれている千住大橋は、隅田川に最初に架けられた橋である。日光道中の一部であり、橋上に人馬が絶え間なく往来している様子が描き出されている。行き交う人びともまた千住大橋の風景を構成する要素の一つであった。また、橋詰には材木問屋が描かれているが、当時、千住大橋両岸は、浅草・木場と並ぶ材木の流通拠点の一つだった。

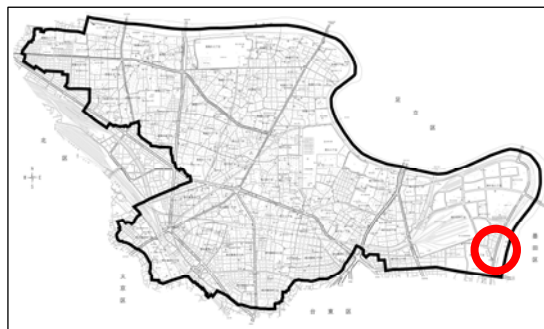
荒川区景観コラム ～ 隅田川と石浜神社 ～

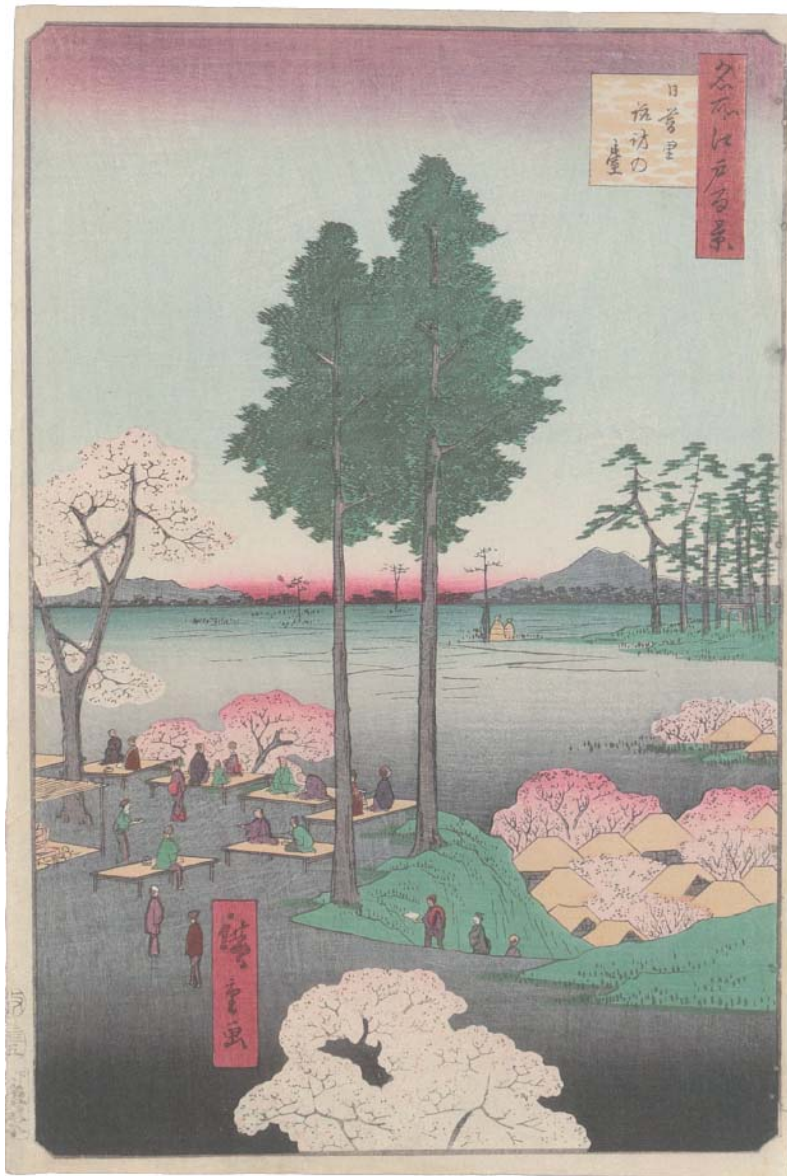


東都名所 真崎暮春之景

天保2～3年(1831～32)
歌川広重画 川口正蔵版

遠景に筑波山が描かれており、画面左が隅田川西岸の真先稻荷社の鳥居になる。鳥居の右にある常夜灯は、現在も石浜神社正面入り口に残されている。その奥の橋場の神明社(現石浜神社)の鳥居は、木製の鳥居として描かれている。川には、帆掛船、筏、渡し船が描かれ、舳先に都鳥らしき鳥が飛んでいる。

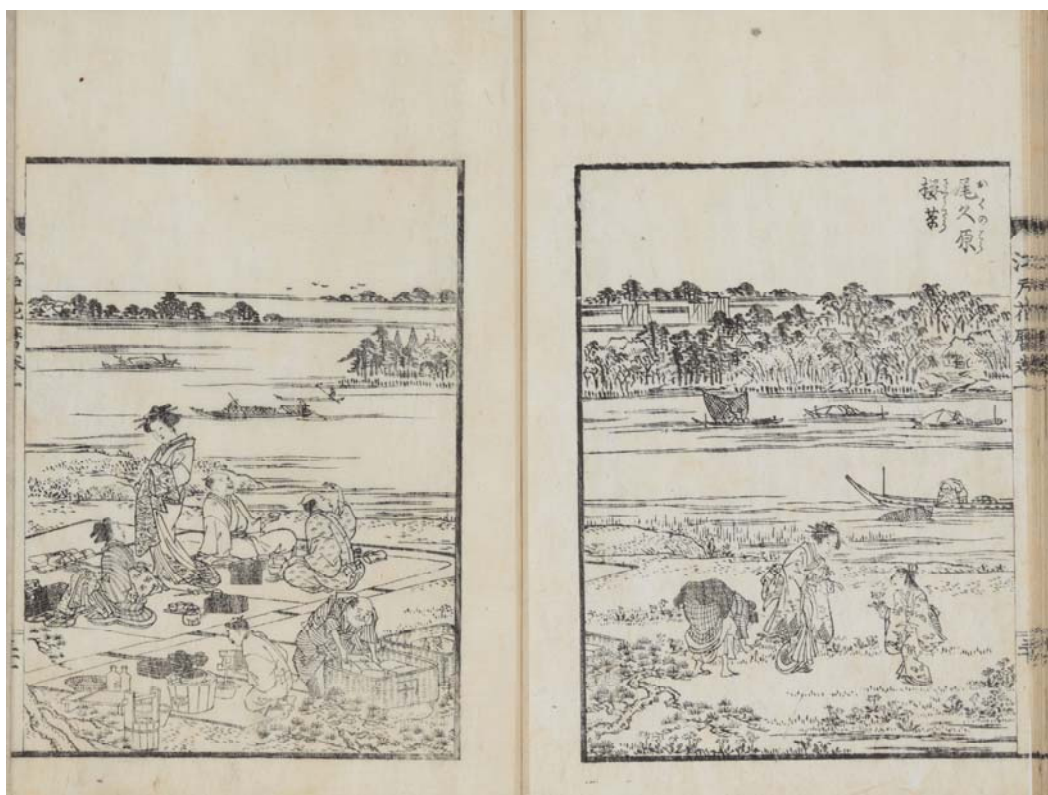




名所江戸百景 日暮里諏訪の台

安政 3 年 (1856)
歌川広重画 魚栄版
鈴木通雄氏蔵

諏方神社の境内である諏訪台(西日暮里三丁目)から望む春景色。大きな 2 本の杉の木の下には茶店が設けられている。名所は、桜の花、自然薯でつくる芋田楽、土器投げ、そして眺望である。それらを楽しむことを目的にした人が絶え間なく、地藏坂から上ってくる。ここからの眺めは絶景で、遥か遠くに下野国(栃木県)の日光連山、常陸国(茨城県)の筑波山を望む。



尾久原桜草

文政10年(1827)
「江戸名所花暦」岡山鳥編 長谷川雪旦画

「尾久の原」は現在の都立尾久の原公園辺り。桜草摘みを楽しむ娘や、弁当を広げ、杯を傾けながら川面を眺める人びとが描かれる。川面では四手網を広げた漁師が白魚を捕っている。また荷物を運ぶ船も行き交っている。

